



第42号
2004(平成16)年11月1日
LET九州・沖縄支部事務局発行
〒814-8511 福岡市早良区西新6-2-92
西南学院大学語学ラボラトリー内
TEL & FAX (092) 823-3695
E-mail: ll@seinan-gu.ac.jp
編集: 中野秀子・川上典子・山口千晶

第44回 LET 全国研究大会福岡大会を終えて

大会会長 木下正義(福岡国際大学)

時は待ってくれなかった。2年前に立ち上げた大会実行委員会も20回におよんだ。

あっという間の2年が過ぎた。大会に関する、不安材料もあった。LET主催の市民フォーラムに果たして何人参加があるだろうか。従来、大学をお借りしての大会を借料を支払って福岡国際会議場使用でもし赤字が出たら、今回 LET 大会初めての試みとしての博多湾ディナークルージングでもし台風到来の場合に緊急処置など多くの不安を残しての旅立ちであった。しかし、その不安は実行委員長の大津敦史先生(福岡大学)と事務局の柴戸直善氏を中心とした舵取りで見事にその不安の荒波を乗り越えた。

大会初日の市民フォーラムも240名を超す市民を含めた多くの参加者があつたし、6部門でのワークショップにも191名の参加者があり盛況であった。大会期間中は大会実行委員およびアルバイト学生全員が LET ロゴの入ったネイビーブルーのTシャツ姿で参加者を迎えた。韓国からの keynote speaker の Dr.Kim は「韓国では大会に学生がTシャツを着ている姿は見かけるが実行委員や大会役員の先生までTシャツを着ている姿に感激しました」との感想を述べられた。大会テーマに沿って組まれた水谷修先生の講演は近年にない素晴らしい講演であった。小生の友人の田中慎也先生(桜美林大学院教授)が大会終了後に何かの会合で水谷先生とお逢いされた折に、「LET 全国大会福岡大会に行って来たがこんなに組織化された運営が立派な大会は初めてだった」と洩らされたとのことであった。

今大会の研究発表の申し込みはネット上で実施されたが、締め切り日までは予定していた会場には発表件数

が満たなかったが、発表の締め切り日を延期した結果72件に上る件数が集まった。4階ロビーでのポスターセッションも祭りのように人で溢れ、それぞれの発表者とやり取りしている場面はこれまでにない光景であった。博多湾ディナークルージングの懇親会も乗船チケットが完売し、177名の参加者の熱気が台風16号の到来を止めてくれた。大会終了後カナダに帰国された Dr.Peter Liddell (President, IALLT) は大八木廣人 LET 会長に宛てた書簡に今回の大会の印象を「Superb」の単語で褒め称えてくれた。

最終日の坂本昂先生の特別講演も時間が足りない程の熱のあった講演でし、全体シンポジウムも大会の軸となって大会を最終の美で飾ってくれた。今大会の展示業者からも多くの先生が展示会場に足を運んで頂き感謝の言葉をもらいました。

3日間の延べ参加者数は約1400名であった。多数の人々のご協力を得てこの大会は大成功裡に終了しましたことに衷心より感謝申し上げます。



支部シンポジウム

2004年度全国研究大会を無事終えて

第44回全国研究大会実行委員長 大津敦史(福岡大学)

去る7月28日～30日の3日間、「外国語教育メディア学会(LET)第44回(2004年度)全国研究大会」が開

催されました。第1日目には、西南学院大学を会場として6つのプログラムからなるワークショップが開かれ、

どの会場も数多くの参加者で賑わいました。セキュリティとの関係で、講師が当日使用するソフトウェアのインストールなどに大変苦労しましたが、西南学院大学パソコン教室関係者のご協力で、どうにか問題を解決することができました。本当にありがとうございました。夕方からは、西南学院中学・高校のチャペルに会場を移して、市民フォーラムを開催しました。このような市民参加型のフォーラムの開催は初めての試みでしたが、「英語が話せる子どもたちの育成を目指して 一親の立場・教師の立場」をテーマに、金森強先生（愛媛大学）をコーディネータとして、今後日本の英語教育はどうあるべきかについて、じっくり考えるよい機会になりました。参加者数は、関係者も含めて約250名でした。第2日目には、メイン会場である福岡国際会議場にて、開会行事、

基調講演、キーノート・スピーチ、口頭発表、ポスターセッション、支部担当シンポジウム、それに協賛企業による展示が行なわれました。さらに最終日には、口頭発表、ポスターセッション、展示に加えて、特別講演、全体シンポジウム、そして閉会行事が行なわれ、無事すべてのプログラムを終了することができました。それぞれの詳しい報告につきましては、他の先生方へお願いしますが、この3日間を通して約1400名もの多くの方にご参加いただき、成功裡に閉会することができました。実行委員長として、これに勝る喜びはありません。大会の準備から運営まで、すべてに渡って献身的にご協力いただいた実行委員お一人おひとりに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

各担当者からのご報告

基調講演 演題：国語教育と外国語教育の連携がもたらすもの

染 矢 正 一（大分県立芸術文化短期大学）

基調講演をされた水谷修先生（名古屋外国語大学長）の基本的なお考えは、「外国語運用能力の基本は日本語能力にある」ということである。まず、隗より始めよということで、名古屋外国語大学で必修科目として日本語の「基礎ゼミ」のクラスを開講された。いっぽう英語のクラスは6名の少人数で指導された結果、語学教育においてかなりの成果をあげているという。

「外国語能力を確かめるために母語の力を問う」例として、NHKの外国語番組の講師を、日本語の運用能力をもとに探した話をされた。いっぽうアメリカでは、ある雑誌の日本に関する記事をあつかう記者を採用するさ

いに、英語の能力をもとに探したという話もされた。

日本語の「ら」という子音と英語の [l] が同じ調音法である」ということが自覚できれば、英語の [l] の発音に自信が持てると言われた。「1万円もしました」と「1万円もしません」の違いは「事実と意見」の問題であり、前者には事実に対する自分の恨みが表現されていると述べられた。水谷先生は、日本語のなかにあるこうした事実を見つけ、それを分析し、説明できることが外国語の運用能力につながることを力説された。

これからの語学教育について、大変重要なご提言をしていただいた。

全体シンポジウム：外国語教育におけるあるべき変革の方向を考える —産・学・官の立場から—

石 井 和 仁（福岡大学）

本シンポジウムは、平成15年から実際に動き始めた「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」を背景に、今、教育現場で求められているものは何か、そしてどのような調整を行わなければならないのか、ということを生産・学・官の立場から検証し、より具体性を持った外国語教育の方向性を議論するものであった。コーディネータは福岡大学の石井和仁が勤め、パネリストは発表順に、官の立場からは長崎県教育庁学芸文化課長、樋口聰氏に、産の立場からは株式会社ネットラーニング社長、

岸田徹氏に、そして学の立場からは関西大学大学院の竹内理氏にそれぞれお願いした。樋口氏は、「行動計画」の検証を行い、岸田氏は、産業界における e-learning の現状をレポート。そして竹内氏は、英語教育全般における自由化と選択の問題および英語による授業の拡大について論じた。まとめとしては、今後オンライン・ラーニングとオフライン・ラーニングの相補関係が重要な鍵になるであろうという認識を得た。

九州・沖縄支部シンポジウム：学力低下とリメディアル教育

田 口 純（筑紫女学園大学）

九州・沖縄支部企画シンポジウムはテーマを「学力低下とリメディアル教育」とし、少子化による受験者数の減少、多様な入試制度という中での英語教育の現状と今後の課題などについて具体的な事例をもとに発表・討論が行われた。メディア教育開発センターの小野先生からは、現在携わっているプロジェクトの結果から日本の大学における学力低下の現状とその問題点、プレースメントテストやリメディアル教材開発の必要性が増大していることなどを説明いただいた。パネリストによる事例発表として、琉球大学の東矢先生からは、特別クラスや統一テキストの実施、学生の現状の英語力と希望する英語力などについて発表が行われた。福岡大学の高橋先生か

らは、英語クラスを目的別クラスに改革し、入試の多様化に即したフォローアップ、学生アンケートの結果から今後の課題などについて発表していただいた。名古屋学芸大学短期大学部の鈴木先生からは、いち早く取り組んでいるリメディアル教育や e-Learning を活用した個別学習支援、学習コミュニティなどについて発表をしていた。その後、フロアからのパネリストへの質問などがあり、最後にコメンテーターである小野先生に総括をしていただいた。高等教育に於ける学力低下の問題とリメディアル教育の今後のあり方について有益な方向性を見出し、今後もより効果的に学生の英語力を高める努力を続けなければならないことが実感された。

市民フォーラム：英語が話せる子どもたちの育成を目指して ー親の立場・教師の立場ー

東 條 加寿子（九州女子大学）

大会初日、市民フォーラムが開催されました。「英語が話せる子どもたちの育成を目指してー親の立場・教師の立場」をテーマに、木の香りにつまれた西南学院中学・高等学校のチャペルで、今、大きく動き出した英語教育の問題が、様々な角度から広く議論されました。

フォーラムではまず、影浦攻先生（宮崎大学教授）の基調講演が行われ、「英語が話せる子どもたちの育成を目指して」と題して、英語教育の施策についてその「熱い」現状についてお話を賜りました。その後、先進的な英語教育への取組を行っている3団体（都築学園リンデンホール小学校、長崎県佐世保市立福石中学校、福岡女学院高等学校）のビデオが上映されました。そして、最後に、「日本の子どもたちにとっての英語教育とは」と

いうテーマのもとに、金森強先生（愛媛大学）、白畑知彦先生（静岡大学）、今泉柔剛先生（福岡県教育庁高校教育課）および稲田有美さん（福岡市立飯倉中央小学校卒業生の保護者）によるパネルディスカッションが繰り広げられました。

この市民フォーラムは、外国語教育メディア学会全国研究大会としては初めての企画でした。国際化の進む社会の中で急務である英語教育の問題を、さまざまな立場から、現状を見据えた現実的議論と将来を展望する論理的議論の両面から深めることができた点で、会場に集まった参加者は有意義な時間を共有することができました。パネリストに寄せられたコメントや質問の多さがそれを物語っていたと思います。

ワークショップ・大会ホームページ作成担当を終えて

竹 野 茂（宮崎公立大学）

3日間の全国研究大会を振り返って、全国研究大会の運営の大変さをはじめて実感しました。いつもは一会員として研究大会に参加し、多くの人の発表を聞き、触発を受けるという言わば受け身の姿勢で研究大会を見てきました。しかし、今回、大会実行委員会メンバー（ワークショップ企画担当、ウェブの作成担当および機器調整担当）として働くことの大変さと楽しさを、よき九州・

沖縄支部の仲間たちと共有することができたことを大変喜んでおります。いつも「ずぼら」な私ですから、その分苦労したという思いがありますが、大会が大盛況に終わったことは、大会運営の疲れを吹き飛ばすものでした。この経験が今後の私の糧になると思います。また、こうした経験が次世代の LET メンバーに引き継がれますよう希望いたしております。

全国大会研究発表、ポスターセッション報告

山内 ひさ子（久留米工業大学）

第44回 LET 全国研究大会での発表の申し込みの出足は遅く、締め切りを4月20日まで延長して募集した。最終的な申し込みは全部で75件であったが、発表要旨の審査の結果、74件が採択された。研究発表または実践報告からポスターセッションへとカテゴリの変更が10件ほどあった。最終的な研究発表と実践報告をあわせて56件、ポスターセッションが15件だった。また発表辞退が3件発生した。九州・沖縄支部からの発表は14件であった。

今回の大会ではコンピュータを使った発表がほとんどであったが、そのうちの19件はインターネットを接続し

ての発表であった。電子黒板を利用する発表（実行委員会側ではこの機器の手配ができなかった）もあった。インターネット接続のコンピュータ利用の発表が今後さらに増えると思われるが、その他の最新のメディアを利用した発表の希望者も増えてくるものと思われる。すべての希望機器を会場に準備するのは大変ではあるが、最先端の機器を利用した発表は、本学会の名にふさわしく、会員が常に新しいメディア利用の外国語教育研究を行っていることを反映しているといえよう。



実行委員会メンバー

LET 九州・沖縄支部の名ばかりの事務局長を終えて

武井 俊 詳（西南学院大学）

所謂 Millennium の2000年からの4年間、LET九州・沖縄支部の事務局は西南学院大学の LL 事務室にあり、事務局長だった本人が口にするのは手前味噌ですが、その貢献は「特筆に値」と。

勿論、木下正義支部長、石井和仁、大津敦史という労を惜しまない両副支部長の後盾と運営委員各位の御協力があつたからこそ。その前提の基、柴戸直善 LL 事務室長の差配の下、吉田由美、今は人事課の石松衣美、3月末で退職の三村幹子等 LL 事務室職員の手際よさ、周到

な準備ときちんとした後始末。特に、今年は全国大会の当番支部で、大津敦史副支部長が自ら実行委員長を買って出たくださったのですが、それも事務局への信頼があつての勇断で、大会の成功の勲ですが、陰の功労のかなりの部分は事務局の尽力だったと敢えて申します。

以上、任務を全うするどころか大会間際の3月末に在外研究でカナダへ行くのを看過される名ばかりの事務局長だったればこそその手前味噌。皆様に感謝。

新事務局誕生にあたって

山 口 千 晶 (長崎ウエスレヤン大学)

2004年度より事務局のお仕事を担当させていただくことになりました長崎ウエスレヤン大学の山口千晶と申します。これまで2期という長きに渡り事務局を担当された西南学院大学の武井俊詳先生や語学ラボラトリーの職員の皆様方に、この紙面をお借りして感謝と敬意の念を表します。長い間本当にご苦勞様でございました。

さて、私にとりまして今回の事務局のお仕事は初めてのことであり、皆様方にご迷惑をおかけしないようにとは思っておりますものの、何かと不手際な点や不行き届きの点が多々出てくるかもしれません。お気付きの点

がありましたら、どうぞ遠慮なくご注意ご指導賜りますよう心から願っております。これからの2年余り、皆様のご指導のもと誠心誠意勤めさせていただく所存でございます。実のところ、実務に関してはまだ引き継ぎ待ちの状態ですが、支部紀要を皮切りに一部の事務局業務が始動いたしました。

皆様に愛される LET 九州・沖縄事務局を目指して一生懸命頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

2003(平成15)年度外国語教育メディア学会九州・沖縄支部決算報告書 2004(平成16)年度外国語教育メディア学会九州・沖縄支部予算書

〈収入の部〉

2004年7月30日

費 目	2003年度予算	2003年度決算	2004年度予算	備 考
前年度繰越金	913,044	913,044	860,271	
会 費 収 入	1,062,000	872,000	1,032,000	会員@6,000×138件、学生会員@3,000×9件 その他@8,000×1件、@5,000×1件、@4,000×1件
支部研究大会当日参加費	20,000	32,000	0	
支部研究大会補助金	0	510,000	0	九州共立大学、北九州コンベンションビューローから
展 示 ・ 広 告	700,000	700,000	400,000	紀要、支部だより、支部研究大会
紀 要 投 稿 料	50,000	55,000	50,000	
雑 収 入	5,000	9,609	5,000	利息、紀要代金
計	2,750,044	3,091,653	2,347,271	

〈支出の部〉

費 目	2003年度予算	2003年度決算	2004年度予算	備 考
支部研究大会準備費	30,000	30,000	0	
人 件 費	30,000	140,000	0	支部研究大会学生アルバイト、講師謝礼
通 信 費	500,000	342,860	450,000	郵送料、事務局電話、FAX 使用料
会 議 費	300,000	178,810	300,000	支部長連絡会、運営委員会、評議員会、紀要編集委員会
印 刷 費	800,000	526,890	600,000	支部だより、紀要等
事 務 費	100,000	27,168	100,000	FAX 用紙、宛名ラベル等
旅 費 交 通 費	150,000	157,070	80,000	支部研究大会関係旅費交通費
積 立 金	300,000	300,000	300,000	全国研究大会等
事務局謝礼	48,000	48,000	48,000	
支部負担金	148,800	148,800	130,800	本部会計へ振込
学 術 講 演 会	160,000	52,608	80,000	JACET との共催
研究プロジェクト	0	0	130,000	
雑 費	100,000	279,176	70,000	送金手数料、支部研究大会弁当代等
予 備 費	83,244	0	58,471	
計	2,750,044	2,231,382	2,347,271	

事務局からの報告・連絡

【新会員】2004年5月1日以降（50音順）

大場 智恵子（筑紫女学園大学）
William Collins（長崎大学）
鈴木 敦 典（九州大学大学院）
Christopher William Storey（北九州市立大学）
中谷 安 男（中村学園大学短期大学部）
長 嶺 寿 宣（国立八代工業高等専門学校）
淵 脇 綾 子（鹿児島大学 大学院生）
ロドリゲス 八木 美樹（九州東海大学）

【事務局移転のお知らせ】

2004年11月1日以降、九州・沖縄支部の事務局が西南学院大学から長崎ウエスレヤン大学へ移行します。事務局長は山口千晶先生（長崎ウエスレヤン大学）が就任されています。

事務局：

〒854-0081 長崎県諫早市栄田町1057
長崎ウエスレヤン大学語学情報センター内
TEL&FAX 0957-26-1248
E-mail let@nwjc.ac.jp

【支部「紀要」第5号投稿者募集】

2004年度LET全国研究大会において、研究発表・実践報告・ポスターセッション・支部フォーラムパネリストを担当された会員に対して、支部「紀要」第5号への投稿希望者を募集しました。

【2005年度LET九州・沖縄支部研究大会】

諸般の事情により2005年5月28日（土）に開催予定です。会場等詳細については決定次第、追ってご連絡します。

【会費納入のお願い】

2004年度までの会費をまだ納入されていない会員の方は、できるだけ早めに振り込んでいただきますようお願いいたします。支部の円滑な運営にご協力ください。なお、年会費は6,000円、学生会員は3,000円です。

また、住所・所属等に変更が生じた場合は、振込用紙の通信欄にその旨ご記入ください。

【LETホームページ】

〈LET本部〉

<http://www.j-let.org/>

〈LET九州・沖縄支部〉

<http://www.j-let.org/kyushu-okinawa/>

ALSI

Web教材ポータルサイト

CHieru.net

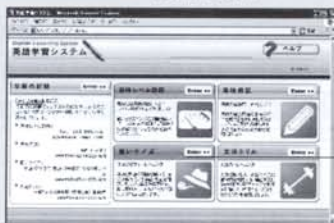
[チ・エル ドット ネット]

<http://www.chieru.net/>

CHieru.netでは、講義・授業の中でご活用いただく指定教材としてご採用いただけるように、期間利用料にてご提供いたします。

旺文社・英検CAT

英語力レベル診断・模試・文法ドリル・語彙力強化といった4つのツールが搭載されており、目的に応じて学力を強化することができます。



自分が学習するコース（問題）を視覚的に選択していただけます。

単語帳機能により、間違えた単語のみをプリントアウトすることができます。

CHieru留学トレーニングシリーズ TOEIC® テスト完全攻略

TOEIC® テストなどの出題傾向に併せた教材をご用意しています。



CHieru.netでご提供しているWeb教材一覧

CHieru.net

●旺文社・英検CAT

●TOEFL® テスト完全攻略

●TOEIC® テスト完全攻略

●TOEIC® テストリスニング完全攻略

●TOEIC® テストスーパー模試シリーズ470点

●TOEIC® テストスーパー模試シリーズ600点

●TOEIC® テストスーパー模試シリーズ730点

●英文法徹底トレーニング

●英文速読・語彙徹底トレーニング初級※

●英文速読・語彙徹底トレーニング中級※

※ASP版発売予定。

アルファシステム インテリ・テクノ株式会社

本社 〒145-0067 東京都大田区豊谷大塚1-7
東京営業所 〒145-0066 東京都大田区南豊谷1-2-7 ニッセイ豊谷ビル2F

TEL: 03-5489-1331
TEL: 03-5489-8045

福岡営業所 〒819-0006 福岡市西区埴原新地4-12-12 フコビル2F
沖縄営業所 〒901-0156 那覇市田原3-1-9 アナハイムタハラ1F

<http://www.alsi.co.jp/>

TEL: 092-894-8566
TEL: 098-857-9490

※ALSI(アルシー)はアルファシステム インテリ・テクノ株式会社の子会社です。